

令和元年度 東京都立つばさ総合高等学校 学校運営連絡協議会実施報告

1 組織

(1) 東京都立つばさ総合高等学校 学校運営連絡協議会（総合学科全日制課程）

(2) 事務局の構成 総務情報部員8名（事務局長は総務情報部主任）

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務主任）、主幹養護教諭（生徒指導主任）、
主幹教諭（進路指導主任）、主幹教諭（3年次主任）、主幹教諭（2年次主任）、
主幹教諭（1年次主任）主幹教諭（保健環境主任）、主幹教諭（総務情報主任）

計11名

(4) 協議委員の構成

学識経験者（大学教授）、PTA会長、近隣中学校長、近隣小学校長、特別支援学校長、地
区特別出張所所長、青少年対策地区委員会委員長、所轄警察署生活安全課少年題意一係長、
所轄消防署地域防災担当課長、近隣進学ゼミナール副塾長

以上10名

2 令和元年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会（第1回～第3回）の開催日時、出席者、内容その他

第1回 令和元年6月28日（金） 内部委員11名、協議委員7名

協議委員委嘱、委員紹介

前年度学校経営報告および今年度学校経営計画

各分掌・学年より報告

学校予算概要について

質疑、意見交換、協議

第2回 令和元年10月24日（木） 内部委員11名、協議委員10名

各分掌・学年より学校の近況報告

今年度学校評価全体計画について

学校評価アンケート質問項目について

質疑、意見交換、協議

第3回 令和2年3月18日（水）

中止（新型コロナウイルス感染状況拡大による）

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 学校評価の観点

「総合学科への理解」「学校の活動内容・指導方法」「学習・生活環境」等の点から、顧客満足度を測定する観点で実施する。

(2) アンケート実施時期、対象、規模

- ・ 12月 全校生徒 706人 回収率 92.6% (-1.0%)
- ・ 12月 保護者全員 706人 回収率 48.3% (+4.1%)
- ・ 12月 教職員 61人 回収率 57.4% (-1.6%)
- ・ 1月 地域代表 10人 回収率 100% (±0%)

なお保護者の回収率については、例年の5割前後から上記割合に改善することができた。

(3) 主な評価項目

教育目標、系列、学習指導、進路指導、生活指導、行事、部活動、健康管理、環境保全などについて評価。評価に関する回答は選択式だが、自由意見も記入できる。

(生徒27項目、保護者35項目、教職員39項目、地域12項目)

なお回答方法は23年度までは4段階の肯定度を選ぶ方式だったが、24年度からこれに「分からない」を加え5段階となり、不明な事柄などを無理に評価しなくても済むようにした。また平成26年度より、家庭学習に関する項目を追加した。

(4) 評価結果の概要

- * 学校の方針や総合学科への理解に関する評価は高いが、分からないという回答も多い。
 - * 学習指導および進路指導については、生徒・保護者・教員の間大きな評価の差は見られず、大幅な評価の上昇・下降も見られない。
 - * 生活指導について、教員の自己評価に対して生徒の評価が低い項目がいくつか見られる。なお、地域の評価は非常に高い水準を維持している。
 - * 課外学習・ボランティア活動では、学習時間に関して増加傾向が見られた。また、ボランティア活動の必要性について引き続き保護者の評価(必要性を求める強さ)が他2者に比べて高いが、生徒・保護者・教員ともに評価の大幅な上昇や下降はない。
 - * 健康安全・校内美化・緊急対応および施設管理に関しては、「悩み事や困りごとを先生に相談しているか」「健康相談や健康管理について積極的に行っているか」について、引き続き教員の自己評価に対して生徒ないし保護者の評価が低い傾向が見られる。また施設管理に関して保護者の評価が低くなっているが、自由意見において夏季に空調装置の不調があったことを問題視する自由意見が多くあり、このことと関連している可能性が高い。
 - * 地域とのかかわりに関しては、総じて比較的评价が高く、大幅な評価の変動も見られない。
 - * 家庭・地域との連携、広報活動、学校と家庭の連携については、生徒を通じた学校・家庭間の連絡に関する数値が引き続き低い。
 - * 自由意見では、主に次のようなことが改善すべき点として指摘された。
 - ①制服・体育着・水着に関する規則の改善要望や指導の柔軟性を求める要望
 - ②放課後に自習のために居残りができるよう求める要望や適宜の学習指導を求める要望
 - ③空調(夏季の冷房)の不調防止や柔軟な運用を求める要望
 - ④保健室の対応についての改善要望
 - ⑤学校からの連絡をWEBサイトや電子メールで伝えるシステムを構築されたいという要望
- なお地域からは、登下校時における生徒の様子やボランティア活動に関して好意的な意見があった。

(5) 評価結果の分析・考察

- * 総合学科高校としての本校の教育は評価されているが、内外への周知は十分ではない。
- * 地域への施設開放や公開講座、地域における生徒の活動や生活態度は高く評価されている。

- *生徒指導や生徒理解については、よりきめ細やかな対応や取り組みが必要と考えられる。
- *教育活動への評価はおおむね良好であるが、課題はあり、これを改善しつつ現在の水準を維持すべきである。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 成果

- *学習指導や進路指導、生活指導については、課題はありつつも、おおむね良好であると評価された。特に問題行動等の件数は他校に比べて低く、指導がよく行われているとの評価があった。
- *地域貢献（ボランティア活動等）について高く評価されていることが明らかになった。
- *コンスタントに一定数の入学希望者を集めていることを評価する意見があったが、一方で、総合学科がどのような学校なのかをよりよく理解させ、入学後はどのような学習をしていくのかをしっかりと生徒に指導していく必要性を指摘する意見もあった。

(2) 明らかとなった課題

- *学習指導・生活指導については指導の推進だけでなく、生徒の理解も図る必要がある。
- *総合学科の学びを一層生徒に理解させるとともに、将来を見据えた進路決定をさせる必要がある。
- *募集対策として行う広報活動においても、総合学科の学習活動の周知を重点に置く必要がある。

5 学校運営連絡協議会および学校評価を活用した教育活動の改善事項

- *学習指導・進路指導については現在の体制・力量を維持しつつ、進路決定や進路実現のために必要な生徒の力を向上させる方策を実施していく。
- *公開行事、ホームページや学校通信などの広報手段を通じて、学校の方針や諸活動をより分かりやすく保護者や地域の方々に伝えていく。
- *公開講座やボランティア活動などの地域貢献を継続していく。
- *生活指導において、生徒とのコミュニケーションや生徒への説明を密に行い、学校の姿勢や方針に対する理解を深めていく。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 10名（1名異動につき回答なし）

(2) 学校がよくなったと考える協議委員の人数

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	分からない	無回答
8	1	0	0	0	0	1

7 職員会議、企画調整会議への協議委員の参加実績および成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回

以上